

平成 28 年度

病虫害発生予察情報 第9号

6月月報

北海道病虫害防除所 平成 28 年7月 19 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・寡照』長雨と大雨で月降水量が過去最多－

この期間の天気は短い周期で変わり、低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日が多かった。気温はいずれの旬も平年並で、月平均気温も平年並だったが、月のはじめは記録的な低温となった所があった。降水量は上旬と中旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬と中旬は平年より少なく、下旬は多く、月間日照時間は少なかった。なお、太平洋側及び北海道地方では、中旬の降水量が1961年の統計開始以降で最も多く、6月の月降水量も1946年の統計開始以降で最も多かった。

上旬：1日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は枝幸町歌登で75.0mmなど。2日は低気圧や気圧の谷の影響でオホーツク海側を中心に雨が降ったが、晴れた所もあった。3日は気圧の谷の影響で日本海側南部などで雨が降ったが、日本海側北部や太平洋側東部では晴れた所もあった。4日は低気圧が通過し全道的に雨が降った。5日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。6～7日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。8日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、太平洋側東部など晴れた所もあった。9日は低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は根室市弥栄町で64.0mmなど。10日は低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、太平洋側では晴れた。

中旬：11日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。12日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側で晴れた所が多かったが、気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所もあった。13～14日は低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は13日に白老町高砂町で123.0mm、14日に登別市カルルスで50.0mmなど。15日は高気圧の張り出しの中でオホーツク海側などでは晴れたが、雨の降った所もあった。16日は日本海側北部やオホーツク海側でははじめ高気圧の張り出しの中で晴れたが、気圧の谷や湿った気流の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量はえりも町目黒で124.5mmなど。17日は低気圧の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は釧路市幸町で155.0mmなど。18日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降ったが、晴れた所もあった。19日は高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で太平洋側では雨の降った所があった。20日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は浦河町中杵臼で120.5mmなど。

下旬：21日は低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側北部やオホーツク海側では晴れた。22～23日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、太平洋側東部では雨が降った。24日は気圧の尾根の中で晴れた所があったが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。25～26日は発達した低気圧の影響で全道的に雨が降り、25日は大雨となった所もあった。日降水量は25日に登別市カルルスで185.0mmなど。27日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。28日は高気圧に覆われて全道的に晴れたが、日中は大気の状態が不安定となって大雨となった所があった。29～30日は高気圧に覆われてほぼ全道的に晴れた。

気象表

	気温偏差	階級	降水比	階級	日照比	階級
北海道 22 地点平均	-0.2	並	240%	か多	87%	少
日本海側 10 地点平均	-0.2	並	225%	か多	80%	少
オホーツク海側 4 地点平均	-0.8	低	236%	か多	102%	並
太平洋側 8 地点平均	+0.1	並	262%	か多	89%	少

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か→かなり」で表しています。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期（取り置き苗） 並

予察田の「きらら397」における取り置き苗（接種）の初発期は、岩見沢市では平年並、比布町では平年よりやや遅く、北斗市では平年よりやや早かった。「きらら397」の本田での初発は、いずれの地点においても認められていない。

予察田におけるいもち病の発生状況

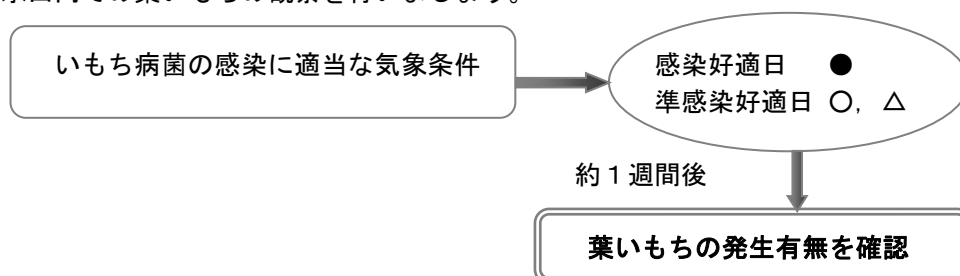
地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月30日	6月29日	未発生	7月23日	5
	ななつぼし	6月30日	6月29日	未発生	7月19日	5
比布町	きらら397	6月22日	6月18日	未発生	7月14日	10
	ななつぼし	6月23日	—	未発生	—	—
北斗市	きらら397	6月22日	6月27日	未発生	7月16日	10

注1)各予察田の窒素施肥量は慣行栽培の5割増

BLASTAM（ブラスタム）の利用方法

BLASTAMは、アメダスの気象データ（気温・降雨・風速・日照）を利用して、いもち病の感染が起こりやすい日（感染好適日・準感染好適日）を予測するものです。

感染のおよそ1週間後頃から、葉いもち病斑が見えるようになります。好適日から約1週間後に、水田内での葉いもちの観察を行いましょう。



BLASTAM予測結果は防除所のホームページで確認できます！！

2. ヒメトビウンカ（第1回） 発生量 並

予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、長沼町で平年より少かったものの、比布町、北斗市では平年並だった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田における畦畔すくい取り頭数

月・半旬	畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	2.5	4.1	15.0	28.2	2.5	0.5
2半旬	0	2.9	30.0	23.3	3.0	0.0
3半旬	0	4.7	15.0	11.8	0	0.0
4半旬	2.5	0.6	10.0	3.0	0	0.0
5半旬	0	1.0	0	0.4	0	0.0
6半旬	0	0.0	0	0.3	0	0.0
平年数	4		10		10	

3. イネドロオイムシ 発生期 並 発生量 少

予察田における産卵初発期は平年と比較して北斗市で早く、長沼町でやや早く、比布町ではやや遅かった。幼虫初発期は北斗市で早かったが、比布町ではやや遅く、長沼町では遅かった。卵塊数、幼虫の発生量はいずれの地点も平年より少なかった。

巡回調査では、要防除水準（2卵塊/株）を超える地点は認められていない。

予察田におけるイネドロオイムシの初発期

	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
産卵	6.Ⅱ	6.Ⅲ	6.Ⅲ	6.Ⅱ	6.Ⅰ	6.Ⅲ
幼虫	6.Ⅵ	6.Ⅳ	6.Ⅳ	6.Ⅲ	6.Ⅲ	6.Ⅴ
平年数	4		10		10	

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	卵塊数(25株あたり)						幼虫数(25株あたり)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	－	－	2.5	0.5	－	0	－	－	0.0	0	－
2半旬	1.0	－	0	15.0	2.5	1.4	0	－	0	1.5	0	0.0
3半旬	2.0	0.4	1	32.9	8.5	－	0	0.0	0	17.6	4.0	－
4半旬	0	1.4	1	36.6	11.0	15.2	0	5.9	3	110.2	10.5	38.5
5半旬	1.0	9.5	1	27.3	8.5	－	0	6.6	3	183.2	36.5	－
6半旬	5.0	10.5	3	19.6	6.0	6.6	5.0	23.5	7	227.8	80.0	161.2
平年数	4		10		10		4		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの卵塊数(25株あたり)

普及センター		地点数	6月3半旬		6月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	本所	5	0.0	0.1	0	0.9
	南東部	2	0	1.0	0	0
	南西部	3	0.0	0	0.0	2.8
	中空知	4	1.0	2.9	0.3	2.5
	北空知	7	6.9	4.0	2.7	2.0
石狩	本所	5	0.8	0	2.0	0.5
	北部	4	0	0.5	0.8	0.6
後志	本所	4	0	0.3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0

普及センター		地点数	6月3半旬		6月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
日高	西部	3	0	0	0	1.7
渡島	本所	3	0	0	0	0.3
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0.1
	富良野	2	0	0	0	0
	大雪	4	0.3	0	0.3	1.0
	士別	2	0	0	0	0.5
	名寄	3	0	0	0	0
留萌	本所	3	0	0.3	0	0.7
	南留萌	3	0	0	0	0

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第1回)

発生期 やや遅 発生量 やや少

予察灯による第1回成虫の初誘殺日は、北斗市ではやや早かったが、長沼町ではやや遅く、比布町では遅かった。誘殺頭数は、いずれの地点においても平年と比較して少なかった。予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、いずれの地点においても平年と比較してやや少なかった。

巡回調査では、多発生を目安となる畦畔すくい取り捕獲頭数5頭(第1回発生期)を超えた地点は、空知地方の1地点に止まった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.3	0	1.1	0	0.0	0.0	0.6	0	0.4	0	1.5
2半旬	0	1.5	0	1.0	0	0.0	3.8	2.2	0	0.6	3	0.8
3半旬	0	11.7	0	2.2	0	0.6	0.0	13.8	0	0.9	0	0.8
4半旬	16	12.0	0	1.4	2	4.5	15.0	5.7	0	0.5	0	2.6
5半旬	10	16.6	0	2.9	0	9.0	1	2.2	0	0.0	0	2.8
6半旬	5	26.3	1	2.9	1	12.5	3	4.4	0	0.6	0	2.8
初誘殺日	6月17日	6月13日	6月30日	6月15日	6月17日	6月20日						
平年数	10		10		10		4		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成・幼虫の畦畔すくい取り頭数(20回振り)

普及 センター		地点数	6月6半旬		普及 センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0	0	日高	西部	3	0	0
	南東部	2	0	0.5	渡島	本所	3	0	0
	南西部	3	0	1.3	檜山	本所	2	2.5	0.5
	中空知	4	0.8	0.8		北部	2	0	0
	北空知	7	2.1	1.3	上川	本所	8	0.5	1.0
石狩	本所	5	0.8	1.8		富良野	2	0.5	0
	北部	4	0.1	2.8		大雪	4	1.0	1.3
後志	本所	4	0	0		士別	2	0	0.5
	東胆振	4	0.3	4.0		名寄	3	0	0.5
胆振	東胆振	4	0.3	4.0	留萌	本所	3	0.3	0
						南留萌	3	0	1.3

5. フタオビコヤガ(第1回)

発生量 少

予察田における第1回幼虫の発生は、いずれの地点においても認められなかった。幼虫被害は比布町で平年より少なく、長沼町および北斗市では6月末時点で被害が認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	-	0	0.0	0	-	0	-	0	0.0	0	-
2半旬	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
3半旬	0	0.3	0	0.4	0	-	0	0.0	0	0.5	0	-
4半旬	0	0.0	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	1.2	0	0.0
5半旬	0	0.1	0	0.4	0	-	0	0.1	0	1.5	0	-
6半旬	0	0.4	0	0.3	0	0.0	0	0.3	0.2	1.4	0	0.0
平年数	4		10		10		4		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生量 やや少

予察ほの感受性品種における発生は、長沼町の「ホクシン」で平年並、芽室町の「ホクシン」では平年に比べやや少なく、訓子府町の「きたもえ」では平年に比べて少なかった。主要品種「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年に比べやや多かったものの、芽室町では平年並、訓子府町では平年に比べ少なかった。巡回調査の報告によると、石狩地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ホクシン	全葉	2.24	7.00	22.27	20.39	—	44.82	10
		最上位葉	0.24	1.03	4.18	16.07	21.82	40.46	
		最上-1葉	1.78	4.33	40.80	16.68	—	32.13	
	きたほなみ	全葉	0.49	0.81	4.91	3.62	20.65	15.73	6
		最上位葉	0.04	0.19	0.90	1.25	6.08	12.05	
		最上-1葉	0.58	0.41	4.14	3.17	35.51	15.94	
芽室町	ホクシン	全葉	0.24	0.35	1.38	1.31	2.07	5.72	10
		最上位葉	0.02	0.01	0.59	0.42	2.06	5.00	
		最上-1葉	0.27	0.27	1.75	1.56	1.97	6.06	
	きたほなみ	全葉	0.61	0.33	1.71	0.67	4.22	6.05	7
		最上位葉	0.01	0.00	0.38	0.34	3.57	5.02	
		最上-1葉	0.31	0.15	1.52	0.80	5.15	6.64	
訓子府町	きたもえ	全葉	0.01	0.34	1.00	1.16	1.36	23.87	7
		最上位葉	0	0	0	0.25	0.05	3.89	
		最上-1葉	0	0.04	0.01	1.08	0.48	16.99	
	きたほなみ	全葉	0.00	0.04	0.03	0.22	0.14	1.82	7
		最上位葉	0	0	0	0.05	0	0.5	
		最上-1葉	0	0	0.02	0.20	0.04	2.04	

注) —:調査不能

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		6月	3半旬
空知 本所	6	—	—
	南東部	2	—
	南西部	5	—
	北空知	5	—
石狩 本所	8	—	—
	北部	5	8%
後志 本所	2	—	—
胆振 本所	3	0%	—
	東胆振	3	—
檜山 本所	2	—	—
	北部	2	—
上川 本所	3	0%	—
	富良野	3	0%
	大雪	3	—
	士別	3	0%
	名寄	2	0%
留萌 本所	4	—	—
	網走	8	0%
網走 本所	清里	3	0%
	網走	2	0%
	美幌	5	0%
	遠軽	9	0%
	紋別	2	0%
十勝 本所	6	—	—
	東部	6	—
	東北部	5	—
	北部	3	—
	西部	3	—
十勝 本所	3	—	—
	南部	3	—

注1) —:調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率:最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

2. うどんこ病 発生量 少

予察ほの感受性品種「チホクコムギ」における発生は、長沼町、芽室町および訓子府町の全地点において平年に比べ少なかった。主要品種「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年に比べやや多く、芽室町および訓子府町では認められなかった。

巡回調査の報告によると、5月6半旬時点では2地点で最上位葉の1枚下の葉に発生が認められたものの、6月3半旬時点では発生は認められていない。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	全葉	6.51	8.95	11.22	9.31	—	13.24	10
		最上位葉	0.94	0.57	1.04	2.41	2.32	6.02	
		最上-1葉	7.10	4.38	10.70	11.57	—	22.23	
	きたほなみ	全葉	1.79	0.10	1.93	0.11	0.61	0.33	6
		最上位葉	0	0	0.02	0.01	0.14	0.09	
		最上-1葉	0	0.01	0.44	0.06	0.33	0.11	
芽室町	チホクコムギ	全葉	7.47	7.49	11.72	12.73	7.51	17.88	10
		最上位葉	0.85	1.07	2.78	4.61	5.90	11.54	
		最上-1葉	4.59	6.17	5.37	14.24	9.47	26.07	
	きたほなみ	全葉	0	0.12	0	0.17	0	0.25	7
		最上位葉	0	0.01	0	0.01	0	0.03	
		最上-1葉	0	0.04	0	0.08	0	0.16	
訓子府町	チホクコムギ	全葉	5.40	6.90	8.26	9.36	6.17	13.80	10
		最上位葉	0	0.06	0.54	1.18	0.55	3.37	
		最上-1葉	1.08	1.96	3.90	6.81	3.68	17.19	
	きたほなみ	全葉	0.01	0.17	0.02	0.31	0	1.10	7
		最上位葉	0	0	0	0.01	0	0.04	
		最上-1葉	0	0.01	0	0.09	0	0.39	

注) —: 調査不能

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)
			6月 3半旬
空知	本所	6	—
	南東部	2	—
	南西部	5	—
	北空知	5	—
石狩	本所	8	—
	北部	5	0%
後志	本所	2	—
胆振	本所	3	0%
	東胆振	3	—
檜山	本所	2	0%
	北部	2	—
上川	本所	3	0%
	富良野	3	0%
	大雪	3	—
	士別	3	0%
	名寄	2	0%
留萌		4	—
網走	本所	8	0%
	清里	3	0%
	網走	2	0%
	美幌	5	0%
	遠軽	9	0%
	紋別	2	0%
十勝	本所	6	—
	東部	6	—
	東北部	5	—
	北部	3	—
	西部	3	—
	南部	3	—

注1) —: 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

3. アブラムシ類 発生期 並 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町において平年並だった。長沼町ではムギクビレアブラムシの発生を認めておらず、訓子府町では両種共に発生を認めていない。長沼町の予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は平年並だった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.5
3半旬	0	0.2	0	0.5	0	0.0	0	0.2
4半旬	7	2.1	0	0.9	0	0.2	0	1.1
5半旬	2	1.2	0	12.2	0	0.1	0	0.9
6半旬	9	2.7	0	14.0	0	4.2	0	1.9
初発期	6.IV	6.IV	-	6.V	-	6.VI	-	6.V
平年数	10		9		10		9	

注)25 穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生量 多

予察ほの春まき小麦における成虫すくい取り数は、長沼町では平年よりやや多く、比布町では平年よりも多かった。

予察ほの春まき小麦におけるムギキモグリバエのすくい取り頭数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	17.5	7.8	270	89.5
2半旬	55.0	21.6	295	127.9
3半旬	15.0	17.5	280	59.5
4半旬	0.0	11.3	10	25.4
5半旬	0.0	10.3	0	6.1
6半旬	1.3	4.4	10	3.2
平年数	4		7	

注)20 回振り×5 日分換算値

D. 豆類

1. タネバエ（大豆） 発生量 並

予察ほの大豆における被害個体率は、いずれの地点においても平年並だった。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害個体率	35.3%	33.7%	3.3%	3.6%	8.0%	7.1%
健全個体率	56.0%	58.8%	91.1%	91.3%	88.7%	83.8%
他未発芽	8.7%	7.4%	5.6%	5.2%	3.3%	9.1%
平年数	10		10		9	

注)他不出芽:タネバエ被害以外の不出芽個体率

2. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生期 やや早 発生量 やや少

黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町、芽室町で平年よりやや早く、訓子府町では遅かった。黄色水盤における捕獲数は、長沼町では平年並だったが、芽室町、訓子府町では平年より少なかった。

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町では平年並で、芽室町および訓子府町では平年より少なかった。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシの誘殺頭数と初発期

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	3.0	0	0.7	0	0.6
2半旬	15	8.0	1	2.0	0	1.3
3半旬	3	4.8	0	0.6	0	0.8
4半旬	5	3.6	0	0.8	0	0.7
5半旬	3	3.5	0	0.5	0	0.8
6半旬	0	1.1	0	0.3	1	0.7
初発期	5.VI	6.I	5.VI	6.I	6.VI	6.II
平年数	10		10		9	

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生状況

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	-	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	5.0	0	0.8	0	0.6
3半旬	4	11.3	0	0.1	0	5.0
4半旬	14	8.4	0	1.9	0	3.1
5半旬	19	8.9	0	1.9	1	4.9
6半旬	3	6.1	0.5	3.4	1	4.9
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉(計50小葉)あたりの寄生虫数

3. マメアブラムシ(小豆) 発生量 多 <7月7日付け注意報第2号>

予察ほにおける初発は、平年と比較して芽室町で6月3半旬(平年:6月6半旬)と早く、長沼町で6月3半旬(平年:6月4半旬)とやや早く、訓子府町では7月1半旬(平年:6月6半旬)とやや遅かった。長沼町、芽室町では平年と比較して寄生密度の上昇が早く、寄生株率は両地点で平年と比較して高かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月3半旬	4	0.7	3	0.0	0	0.0
4半旬	28	9.0	4	0.4	0	0.7
5半旬	36	15.8	6	1.3	0	3.5
6半旬	16	21.3	18	8.2	0	9.5
平年数	10		8		7	

E. ばれいしょ

1. 疫病

発生期 早

＜6月20日付け注意報第1号＞

予察ほにおける初発期は、長沼町および北斗市では平年より早く、芽室町の「とうや」では平年並であった。訓子府町では未発生である。

巡回調査の報告によると、渡島、檜山、十勝地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける疫病の初発期

地点	品種名	本年	平年	平年数
長沼町	とうや	7月7日	7月16日	8
	スノーマーチ	7月8日	7月24日	7
北斗市	とうや	6月29日	7月9日	7
芽室町	男爵薯	未発生	7月7日	10
	とうや	7月10日	7月9日	8
	紅丸	未発生	7月7日	10
	スノーマーチ	未発生	7月11日	8
訓子府町	とうや	未発生	7月13日	8
	スノーマーチ	未発生	7月12日	7

一般ほにおける疫病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病株率(%) 6月6半旬	普及センター		調査 地点数	発病株率(%) 6月6半旬
空知	南東部	1	0	網走	本所	6	0
後志	本所	5	0		清里	3	0
胆振	本所	2	0		網走	2	0
渡島	本所	1	0.3		美幌	2	0
檜山	本所	2	11.0	十勝	本所	4	1.3
	北部	4	0		東部	4	0
上川	富良野	3	0		東北部	1	0
	大雪	3	0		北部	3	0
	士別	1	0		西部	3	0
	名寄	1	0		南部	3	0
				根室	北根室	3	0

2. アブラムシ類

発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町では平年より少なく、長沼町、芽室町では平年よりやや少なかった。ワタアブラムシ、モモアカアブラムシは、いずれの地点でも初発を認めなかった。

巡回調査では、全61地点中8地点で寄生が認められた。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	1.4	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	1.0	1.5	0	0.2	2	0.9	0	0.2	0	0.0	0	0.0
4半旬	1.0	1.2	0	0.1	1	1.1	0	0.4	0	0.0	0	0.6
5半旬	1.5	2.3	1	0.0	0	3.6	0	1.2	0	0.0	0	0.0
6半旬	0.5	2.5	0	1.5	0	10.1	0	3.5	0	0.0	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数

注2)品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター		地点数	6月3半旬	6月6半旬
空知	南東部	1	0	0
後志	本所	5	0	0
胆振	本所	2	0	0
渡島	本所	2	1	2.5
檜山	本所	2	0	0
	北部	4	0.3	1.0
上川	富良野	3	0	0
	大雪	3	0	0
	士別	2	0	0
	名寄	1	0	0
網走	本所	6	0.2	0
	清里	3	0	0.3
	網走	2	0	0
	美幌	2	0	0
十勝	本所	4	0.3	0
	東部	6	0	0.2
	東北部	1	0	0
	北部	3	0	0
	西部	3	0	0.3
	南部	3	0	0
根室	北根室	3	0	0.7

注)調査株数は10株20複葉

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 —

予察ほにおける初発期は、芽室町では平年より早く、長沼町の「あまいぶき」は平年並であった。訓子府町では発生が認められていない。

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	リッカ	7月12日	—	—
	あまいぶき	7月12日	7月10日	6
芽室町	リッカ	7月2日	—	—
	あまいぶき	7月2日	7月15日	4
	スタウト	7月2日	7月19日	8
訓子府町	リッカ	未発生	7月10日	7

注) —:平年値なし

2. ヨトウガ（第1回） 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける産卵の初発期は、芽室町で平年並だった。長沼町では平年よりやや遅く、訓子府町では産卵が認められなかった。卵塊数は、芽室町では平年並で、長沼町では平年より少なかった。食害程度は芽室町では平年並だったものの、長沼町では平年よりも低かった。訓子府町では食害が認められなかった。

巡回調査によると、被害株率は最も高い地点でも24%で、要防除水準（被害株率50%）に達した地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.4	0	0.05	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	3.7	2	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	2	5.9	2	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	3	7.4	2	2.1	0	1.0	0	0.5	0	0.4	0	0.0
5半旬	1	3.9	1	1.7	0	0.6	0	8.5	2	3.2	0	0.3
6半旬	1	2.1	0	0.7	0	0.7	2.5	15.2	8	7.5	0	1.4
初発期	6.III	6.II	6.II	6.II	—	6.IV						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年
空知	南東部	1	0.0%	2.0%
石狩	本所	3	15.0%	4.7%
後志	本所	3	0.0%	2.3%
胆振	本所	4	8.3%	9.8%
	東胆振	3	4.3%	1.7%
上川	富良野	3	0.0%	15.0%
	大雪	3	1.7%	2.0%
	士別	2	0.0%	0.0%
	名寄	1	8.0%	58.0%

普及センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年
網走	本所	10	3.6%	12.3%
	清里	3	2.3%	4.0%
	網走	2	14.0%	3.0%
	美幌	4	0.0%	5.7%
	遠軽	9	1.7%	8.3%
十勝	本所	4	3.0%	15.8%
	東部	6	1.3%	4.7%
	東北部	4	0.0%	5.5%
	北部	3	0.7%	0.0%
	西部	3	1.7%	6.7%
	南部	3	0.0%	3.7%

注)50株調査

3. テンサイトビハムシ 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は、長沼町および訓子府町で平年並で、芽室町では平年よりも低かった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	25	24.3	8	14.5	25	26.7
2半旬	25	24.3	8	14.9	24	28.4
平年数	10		10		9	

4. テンサイモグリハナバエ 発生量 少

予察ほでは、いずれの地点においても被害が認められなかった。

予察ほにおけるテンサイモグリハナバエの被害葉率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.3	0	0.0
4半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.1
5半旬	0	0.2	0	1.2	0	0.1
6半旬	0	0.2	0	1.3	0	0.2
平年数	10		10		9	

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生期 並 発生量 やや多

予察ほにおける初発期は、長沼町、訓子府町ともに平年並だった。6月6半旬における発生量は、長沼町では平年に比べて多く、訓子府町では平年並だった。

巡回調査の報告によると、空知地方の1地点で発生量が多いほか、上川、オホーツク、十勝地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	6月16日	6月18日	0	0	55.0	6.6	30.0	18.6	6
訓子府町	北もみじ2000	6月21日	6月21日	0	0	0	3.5	2.0	4.8	4

一般ほにおける白斑葉枯病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病株率(%)	普及センター		調査 地点数	発病株率(%)
			6月6半旬				6月6半旬
空知	本所	4	1.6	上川	富良野	4	0.5
	南東部	1	91.3		士別	1	12.0
	南西部	3	0	網走	本所	8	3
	中空知	1	0		美幌	6	2.0
石狩	北部	2	0		湧別	3	2.0
				十勝	東部	1	8.0

2. ネギアザミウマ 発生期 やや早 発生量 少

予察ほにおける幼虫の初発期は、平年と比較して長沼町で早く、訓子府町ではやや早かった。寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町で共に平年よりも少なかった。被害程度も、平年と比較して長沼町でやや低く、訓子府町では低かった。

巡回調査によると、多発生（寄生株率 51%以上）となる地点は認められなかった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25 株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6 月 1 半旬	0.6	0.0	0	0.0	0	0.1	2	0.3
2 半旬	0	0.7	0	0.0	0	1.7	4	3.8
3 半旬	0	1.8	10	2.3	4	2.5	5	7.6
4 半旬	4.7	12.0	19	21.1	11	5.1	14	21.7
5 半旬	3.5	95.3	34	90.2	13	11.0	20	31.2
6 半旬	4.5	220.6	103	555.7	16	18.2	26	42.6
初発期	6. I	6. III	6. III	6. IV	6. II	6. III	5. VI	6. II
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率

普及 センター		地点数	6 月 6 半旬		普及 センター		地点数	6 月 6 半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	15.2%	13.5%	上川	富良野	4	6.0%	36.0%
	南東部	3	0.3%	0.0%		士別	2	14.0%	0.0%
	南西部	2	0.0%	14.7%	網走	本所	8	4.0%	13.5%
	中空知	1	0.0%	4.0%		美幌	4	5.5%	8.0%
石狩	江別	2	5.0%	0.0%		湧別	3	2.7%	5.3%
					十勝	東部	1	12.0%	8.0%

注)25 株調査

H. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6 月 1 半旬	2	7.7	7.6	3.2
2 半旬	6	25.6	12.4	4.3
3 半旬	4	31.9	10.0	3.7
4 半旬	4	37.9	5.2	7.6
5 半旬	6	20.1	3.6	1.8
6 半旬	3	12.9	0.8	4.0
平年数	10		10	

注)10 株あたりの寄生虫数

2. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる誘殺頭数は、いずれの地点においても平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりも少なく、北斗市では平年よりもやや少なかった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	12	34.5	38	61.5	5	13.2	1	8.0
2半旬	13	42.1	37	41.9	0	5.9	3	7.6
3半旬	10	31.9	24	50.6	4	3.6	2	5.4
4半旬	20	31.5	28	30.3	4	5.4	8	4.5
5半旬	15	69.6	11	44.2	1	9.1	2	3.3
6半旬	39	70.9	14	29.7	2	10.9	3	2.1
平年数	10		10		10		10	

注)設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1.2	1.7	0	2.5
2半旬	1.2	13.2	2	5.3
3半旬	2.4	38.5	3	15.7
4半旬	4.0	49.7	10	6.8
5半旬	4.4	34.4	12	30.8
6半旬	30.8	48.4	23	12.6
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

I. りんご

1. モニリア病 発生量 少

長沼町（無防除）および余市町（慣行防除）の予察園では、モニリア病の発生は認められなかった。巡回調査の報告によると、一般園においても発生は認められていない。

予察園（長沼町）におけるモニリア病の発生状況

品種名	昂林			
	実腐花葉叢率(%)		株腐花葉叢率(%)	
調査時期	本年	平年	本年	平年
落花10日後	0	0		
落花20日後			0	0

平年値は7年の平均値

予察園(余市町)におけるモニア病の発生状況

地点	品種名	調査時期	葉腐花葉叢率(%)		平年数
			本年	平年	
余市町A	つがる	6月1週目	0	0.22	10
		6月2週目	0	0.05	
		6月3週目	0	0.07	
余市町C	王林	6月1週目	0	—	10
		6月2週目	0	—	
		6月3週目	0	—	

注) 余市町A・余市町Cの予察園は慣行防除

2. 黒星病 発生期 早 発生量 多

長沼町の予察園(無防除)における初発期は、「昂林」、「つがる」ともに平年より早かった。発生量は両品種とも平年に比べ多かった。余市町の予察園(慣行防除)では2園地とも未発生である。

巡回調査の報告によると、一般園における発生は認められていない。

予察園(長沼町)における黒星病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	昂林	6月9日	6月20日	7
	つがる	6月10日	6月19日	7

予察園(長沼町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)											
		6月1半旬		6月2半旬		6月3半旬		6月4半旬		6月5半旬		6月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	昂林	0	0	0.37	0	1.36	0.46	7.73	1.22	13.54	3.11	18.11	6.94
	つがる	0	0	0.25	0	0.99	0.50	7.41	1.79	13.04	3.54	20.00	7.97

注) 平年数は7年

予察園(余市町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		6月1週目		6月2週目		6月3週目		6月4週目		6月5週目	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町A	つがる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
余市町C	王林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注) 余市町A・余市町Cの予察園は慣行防除

一般園における黒星病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病葉率(%)	
			6月3半旬	6月6半旬
後志	北後志	4	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

3. 斑点落葉病 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における初発期は、平年より遅かった。発生は6月6半旬時点では認められていない。

予察園（長沼町）における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	7月5日	6月22日	5

予察園（長沼町）における斑点落葉病の発生状況

地点	品種名	新梢病葉率(%)						平年数
		6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林	0	0	0	0.32	0	0.73	5

4. ハマキムシ類 発生期 やや遅 発生量 少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年より遅く、余市町Aでは平年並だった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年より遅く、余市町A、同Bでは平年よりやや早かった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町および余市町Aで平年より少なかった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aおよび余市町Bでは平年並だった。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、平年と比較して伊達市でやや少なく、岩見沢市、札幌市、七飯町では少なかった。壮瞥町では誘殺が認められていない。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、七飯町で平年よりやや多く、伊達市、壮瞥町では平年並だったが、札幌市では平年より少なかった。岩見沢市では誘殺が認められなかった。

フェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.4	0	0.1
2半旬	0	1.2	0	0.1	0	0.0	0	0.1	1.0	3.1	0	1.3
3半旬	0	3.6	0	0.1	0	0.0	0	4.3	8.0	2.6	7.0	2.0
4半旬	0	18.9	1.5	1.6	0	0.4	0	13.9	3.5	2.5	4.0	4.7
5半旬	0	20.9	0.6	3.7	0	0.8	3	33.9	1.8	3.5	0	2.6
6半旬	4	24.7	0	6.4	0	2.9	11	39.8	0.7	3.4	0	2.0
初誘殺日	6月26日	6月15日	6月22日	6月20日	-	6月23日	6月21日	6月15日	6月9日	6月12日	6月13日	6月17日
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	1.5	0.3	1.3	0	0.0	0	0.1	0	0.1
4半旬	0.5	2.6	0.7	5.2	0	0.3	0	0.4	1.0	1.7
5半旬	0.5	3.3	2.9	12.8	0.7	1.4	0	0.7	0	2.7
6半旬	1.0	1.6	1.1	10.0	0.7	3.1	0	3.3	0	5.9
平年数	10		10		10		10		7	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
2半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.0	1.0	0.1
3半旬	0	0.3	0.3	0.6	0	0.1	0	0.0	1.3	0.8
4半旬	0	0.5	0.7	1.5	0	0.7	0	0.3	1.7	0.5
5半旬	0	0.7	1.4	5.6	1.4	2.5	0.7	0.7	2.0	1.3
6半旬	0	1.9	0.6	11.9	7.0	6.1	0.7	1.1	5.3	1.6
平年数	10		9		10		10		7	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

5. モモシンクイガ 発生期 やや早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによる初誘殺日は、長沼町では平年並で、余市町Aでは平年よりやや早く、余市町Bでは早かった。長沼町の予察園における産卵初発は6月24日(平年:7月5日)で平年より早かった。

予察園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町および余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、札幌市、七飯町では平年並だったが、伊達市、壮瞥町では平年より少なかった。岩見沢市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.1	0	0.2	1.0	0.1
3半旬	0	0.8	1.0	1.0	1.0	0.4
4半旬	3	3.0	8.0	2.2	10.0	2.9
5半旬	2	7.2	4.3	6.8	11.0	6.0
6半旬	2	16.0	1.9	12.8	5.0	12.7
初誘殺日	6月19日	6月19日	6月15日	6月20日	6月10日	6月18日
平年数	10		10		10	

注)余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.4	0	0.3	1	0.0
4半旬	0	0.1	0.7	0.2	0	1.0	0	1.7	0	0.1
5半旬	0	0.7	2.9	2.0	0	3.2	0.7	4.1	0	0.3
6半旬	0	1.4	1.1	2.9	2.1	7.4	2.0	7.1	0	0.8
平年数	10		10		10		10		7	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

6. ハダニ類 発生量 やや少

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、長沼町では平年よりやや多く、余市町A、Bでは発生を認めなかった。ナミハダニの発生量は、長沼町では平年並で、余市町Aでは平年より少なかった。余市町Bでは発生を認めなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	5	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.0
2半旬	4	0.3	0	2.3	0	0.8	0	0.0	0	0.3	0	0.0
3半旬	0	1.4	0	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0
4半旬	1	0.3	-	0.8	-	0.2	2	0.0	-	0.2	-	2.9
5半旬	0	1.0	0	0.3	0	0.0	0	0.3	5	0.0	0	4.0
6半旬	1	1.6	-	1.2	-	0.3	1	0.1	-	7.7	-	2.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 30 葉あたりの寄生虫数

注 2) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

7. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町Aでは平年より少なかった。余市町Bでは平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、平年と比較して壮瞥町では多かったが、札幌市ではやや少なく、岩見沢市、伊達市、七飯町では少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	2.0	0	4.7	0	1.7
2半旬	0	0.5	0	1.9	0	0.8
3半旬	0	0.4	0	0.6	0	0.6
4半旬	1	0.2	5.0	0.9	33.5	0.5
5半旬	4	7.6	11.3	7.4	22.7	11.7
6半旬	6	6.9	15.5	111.2	15.5	58.9
平年数	10		10		10	

注) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.9	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	6.2
2半旬	0	1.6	0	0.4	0	1.3	0	1.1	0	2.0
3半旬	0	0.2	0	0.6	0	0.6	1	0.5	0	0.4
4半旬	0	0.5	0	0.6	0	1.2	1.4	0.3	1.7	1.5
5半旬	0	0.8	0.7	0.7	0	1.8	97.1	10.1	0	20.4
6半旬	0	2.7	0.3	0.6	0	4.1	52.6	47.7	0	108.9
平年数	10		10		10		10		7	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

水稻の開花期である7月から9月にかけて、多くの養蜂家が道外から道内各地に移動してきており、水田の周辺に蜂場を設置して養蜂を行っている場合があります。

国が実施した調査の結果から、蜜蜂被害は水稻の開花期及びその前後に多く、カメムシ防除の殺虫剤を浴びたことに原因の可能性があると考えられています。

このため、これからカメムシ防除の時期となってきますので、次の点に留意し、被害軽減対策に取り組んでください。

- ① 関係機関や農業団体等は、蜂場の設置場所及びその周辺の水田の農薬散布計画等の情報を相互に共有するとともに、得た情報を養蜂家、周辺の水稲農家に伝え、注意喚起しましょう。
- ② 養蜂家は、蜜蜂がカメムシ防除の殺虫剤に暴露する確率が高い場所には、できるだけ巣箱の設置を避ける、防除が実施される時期には巣箱を退避させましょう。
- ③ 水稲農家は、農薬散布は蜜蜂の活動が盛んな時間帯（午前8～12時）を避け早朝や夕刻に行う、蜜蜂が暴露しにくい形態の農薬（粒剤等）に切り替えましょう。

※ 国の蜜蜂被害調査結果や被害軽減対策の通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



北海道
平成28年6月15日～8月31日

■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性のある箇所注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危害被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。